

昭久

昭久

昭久

東京サバイバル「コンビ」こうして『死に神』から逃れた

「有権者の皆さまから『あなたたちに騙された』『もう話は聞きたくない』と心のシャッターを閉められてしまった。それをどうこじ開けるかの闘いでした」
（長島昭久防衛副大臣）

死屍累々の民主党の中、なぜ彼らは生き残れたのか。

計二十五ある東京都内の小選挙区のうち、民主党で生き残ったのは、長島氏と長妻昭元厚労相のみ。前回総選挙では自民党が四議席に留まつただけに、強烈な振り子現象が起きた。

辛くも落選を逃れた秘訣を二人に聞いた。

2012.12.27
週刊文春

週刊文春

12月27日号 830円



世話を。積極的に自民党に戻そうと思っているわけではありませんから。

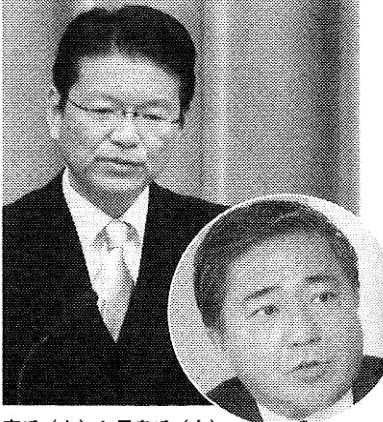
私は自分が生きる道を考え、『とにかくこの国の外交・安全保障を任せてほしい』と訴えました。

北朝鮮のミサイル発射もあった中、私は防衛副大臣としての経験があります。与党も野党もない、あるいは国益だけだという主張が、かろうじて受け入れてもらえたのではないか（長島氏）

専門分野にフォーカスした訴えが功を奏したと語るのは、社会保障に詳しい同様だ。

「私がもつとも訴えたのは、官僚主導の仕組みを変えることは、社会保障に詳しいと

総選挙緊急速報! 「勝者」と「敗者」全ドラマ



「安倍政権が右の方に振れると、民主党は左に振れる可能性が出てくる。それでは昔の社会党と同じです。党に転落した。一人は今後、自らの専門スキルをどう活かすのか。

私たちには三年間、政権をつて現実と向き合つてきました。建設的な外交・安保の野党として、役割を担つていきたい」（長島氏）

「かつての民主党は、政府にピントで問題点を指摘することが多かった。でも今後は、与党を経験して得たプラスアルファとして、社会の大きなビジョンを提示した上で国会論戦に臨みたい」（長妻氏）

くれぐれも「反対のための反対」をなさらぬよう。

（上）と長島氏（右）